

特
43遠へ
2257
12



繪本烈戰功記卷之十二



目錄

謙信既搗在城之事

既搗合戦之事

信玄察天変而退既搗圖

上抄謙信義心之事

謙信於摺上賦詩圖

武田与今川房揃之事 先氏其敗北之事

武田与北條確執之事



繪本烈戰功記卷之十二

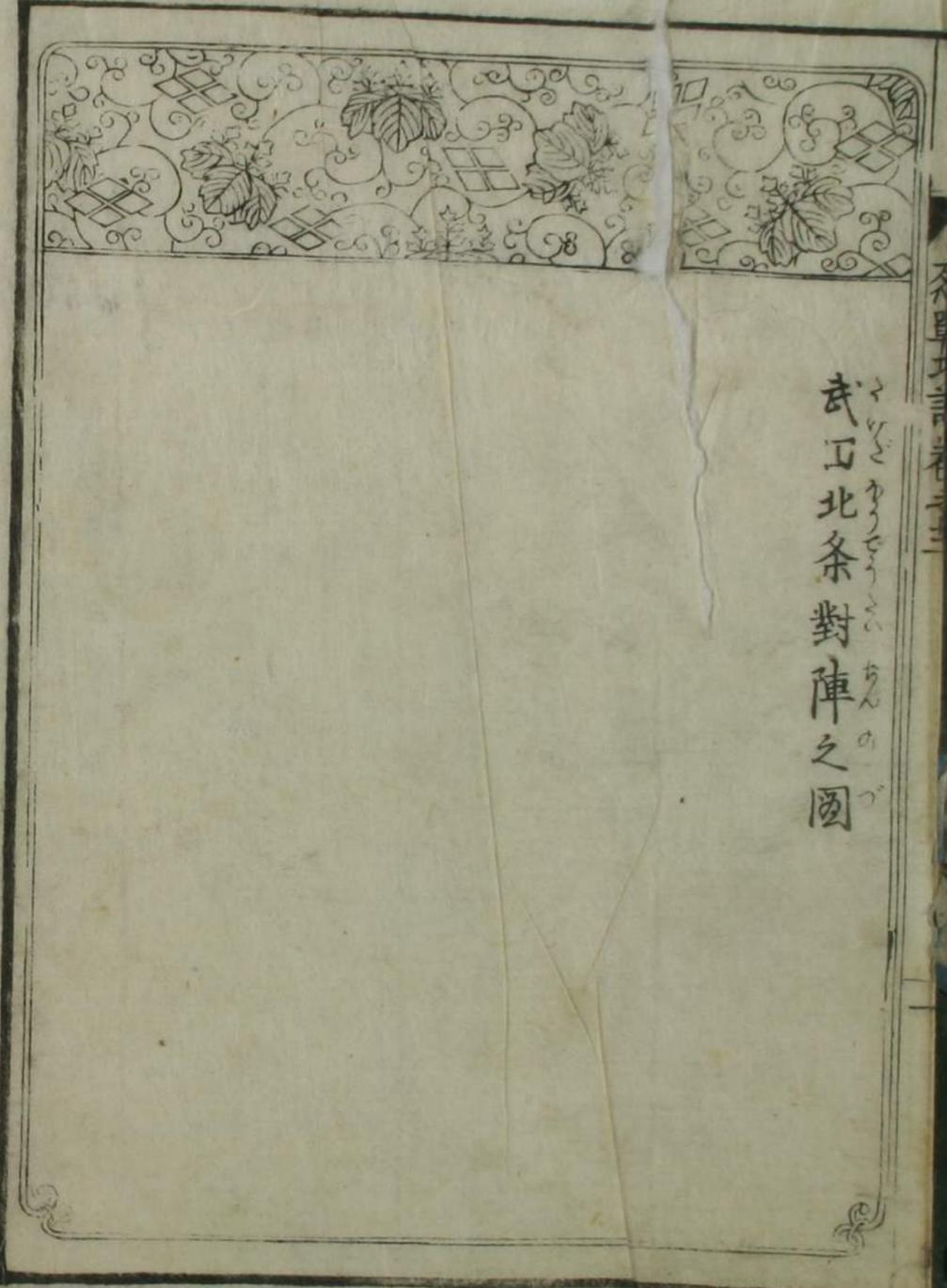
謙信既橋在城之事

第

解

上校輝虎入道謙信上は和同の陣を巻はる。越後又飯沼
 有し事。謙信一代のふ覚るりと聞えし。まより後ハ小條の
 地より河へ入る。城を攻めり。越後立つ。其外処は放火して
 上格の乃物とひ。軒既橋の城へ入て。諸軍を休めら
 ぬ。乃物。小條氏安方又温り。け時をささげ。謙信を討
 災此根切とせん。武田家又役者を送りて言く。備も
 及の上校入道謙信。氏安が領地を掠取。事救ふ
 及びけ頃上州既橋又軍を休め。進て攻圍の勢を聞え候
 然もバ既橋を城の間に押す。年来の誓懐を散せたり

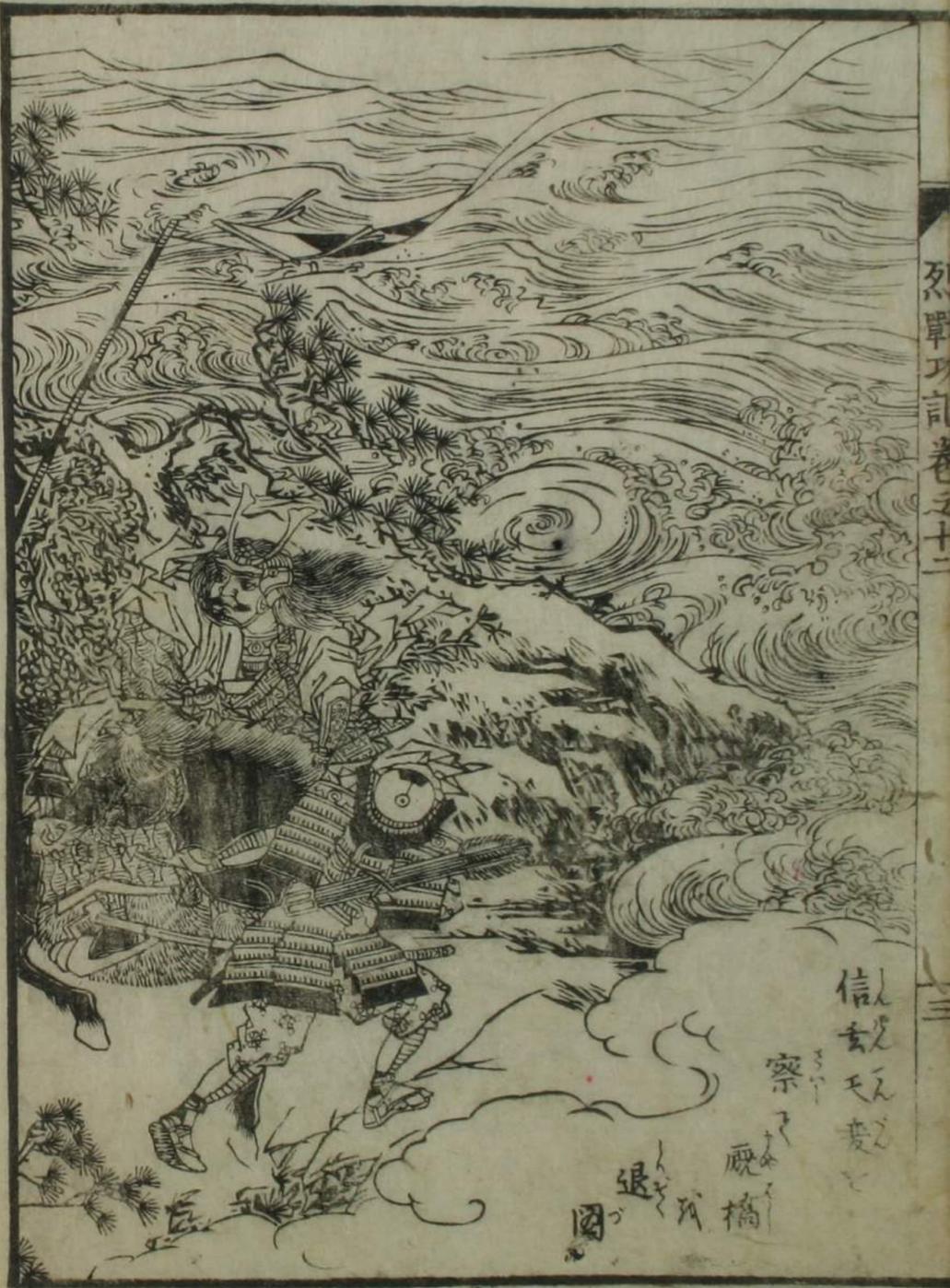
武田北条對陣之圖





武田信玄

武田信玄



信玄

察

殿

退

國

武田信玄

三

説諭

敵

何の益乎。況乎故の謙信を以て。味方大敵を以て。時清國
 乃人々加勢を以て。是只味方此換亡而已。故又敵又對
 之。毎條は憤て殺せんと。古人も云すや。假令謙信は後治
 の勢何方より寄るとも。屬はあらず。今三日を待せり
 け小城と攻落し。謙信が首を以て。掌中を以て。膝を以て
 解脫せしむれども。氏安服し。る氣色も見えぬ。亦くは暴雲
 良ふ。あつて。いかに。什麼を以て。武と有けしむ。信玄思ふ。莫而曰
 嗚呼。保計を以て。天運を以て。謙信屯て。守り。今も
 意は。速に攻を以て。許さる。氏安大に。い
 我攻を。敵て。熱攻の下知を傳ふ。こゝに。武田の臣。末倉丹後守と
 いふ者。先づ。赤松系の城を攻。時。竹把を以て。殺せり。

川内カニ...

寄

隙

立

變化の唯此格言より。其。智平盡と。言平震に
 野分。小條氏田の大軍。周を殺し。全敵と。息も。は
 攻。つる。も。名。猛將上松謙信。一騎。南千代。常士と。後
 籍。城。有。事。あ。れ。ば。防。賊。の。体。處。有。寄。手。に。負。駑。あ。り
 とも。案。入。が。た。の。處。さ。く。責。あ。ら。ん。で。ど。も。え。さ。り。ら。る。小。條。氏。安。信
 去。の。改。め。て。軍。儀。而。曰。味。方。が。大。軍。を。以。て。義。將。の。謙。信。を。以。て
 攻。倭。徒。よ。日。と。送。ら。れ。他。國。の。事。を。え。は。た。す。ら。れ。と。當。り。且。後。結
 の。懸。あ。り。も。あ。ら。ず。先。明。日。の。勢。と。氏。安。が。智。と。同。年。を。押
 せ。存。亡。と。一。巻。に。換。ふ。い。け。後。庶。幾。あ。ら。う。と。や。こ。れ。の。外
 信。玄。云。亮。と。して。曰。作。の。ど。く。大。軍。を。以。て。義。將。の。謙。信。を。攻。倭。い。て
 清。國。の。聞。え。最。速。し。ら。る。お。似。て。は。大。國。を。以。て。攻。倭。い。て。而。我

康...

時

采配

防ぎ。其後又松山の陣攻も是を用て勝利を得る。今更も彼東愈々命じ。竹把河用て先鋒を遣はす。月廿二日。友家の大軍旗を以て關の勢一同を發し。城を燒くる。勢い山列裂が如く。當として攻寄る。四方に全敵と打ち戦ひ見果す。隊伍を乱さる。故らざる地もすく我を以て孤陣亡人と被。時又城中より例の如く矢石を飛ぶ事烈而攻よせ。先鋒竹把と列せし疾丸を以て此も破る。射ももて成りもせん。竹把を緩急自在に操りせし。短く熱勢一同に。城際まで攻詰る。と有りとの常士我先鋒を中敵。陣兵を破られども。死傷とぬく防戦と。これども

両家此大軍掩ひ。已に外曲輪をめぐり。時又武田佐玄陣攻に進み。采陣を以て下知と為す。良の空を以て是有り。係は氏安の使へ使者とす。又百足の指あたる兵士を召て。先鋒此諸軍へ命を傳へ引籠りしとせし。小糸方にも是を令せ。勢を相圖は先鋒の兵率衆入し。隊を操り引退る。城中の是とて。如何なる縁付か。操つんと。た右も亦出で。勢は固く。其勢を以て。守るは方より武田佐玄。諸軍は命を傳へ。引籠りし。利根川の方へと。小糸方にも氏安父も。隊伍を乱し。引籠りし。小糸方にも氏安父も。同諸軍を引く。利根川は向ふ。おしも一天係は四雲。良の方

武田佐玄

五

敵

八也。二十六年北間堅を殲き。強き城下は。進を注。逃るを退。共
 突き入竹丸割を。諸君是が為に。我栗を。亦るふ。今な
 城兵を制し。退討を止めらる。事。未是程。行。まき
 我き。と。敵も味方も云合り。

上校謙信義心之事

茲又武田家。先年。隱練の企。一。去。即。我。一。言。又
 鑑られて。其。陶。と。て。月。日。を。送。る。ま。け。ら。が。今。年。永。録。九。年。十
 月。自。害。而。果。ら。れ。た。る。約。年。三。十。七。と。ぞ。ゆ。の。は。是。又。依。り。今。川
 氏。其。の。我。兵。又。方。人。也。一。事。も。斷。る。露。又。し。ち。れ。ば。依。云。を
 懐。て。氏。兵。を。甚。敵。と。情。す。れ。た。る。又。今。川。家。に。於。て。は。玄。己。が。武
 勇。を。誇。り。氏。兵。を。麾。下。の。と。く。舍。然。い。と。兼。而。愠。を。會。の。下。

川氏力也

敵

より暴雲起り。怪風地と捲砂を捲く。玉雲一面より。

て晴夜の。山谷の。放火の。寄りの。

より。と。あ。つ。つ。て。而。は。む。く。て。死。板。も。す。く。せ。利
 根川の。水。は。流。れて。最。味。く。有。り。を。幸。り。て。お。日。

備軍息を。休めけり。常下。中。の。保。長。保。信。の。弟。進
 寄。り。の。退。き。い。と。覺。い。急。ぎ。追。う。け。て。付。面。い。り。ん。と。言。ま
 て。中。ち。れ。た。保。信。是。を。堅。く。制。し。勢。は。天。變。成。未。幾。そ
 密。疾。退。程。の。別。款。成。退。り。と。も。幸。勝。利。を。得。ん。や。敵。も。亦
 任。云。あり。是。程。の。事。の。知。る。う。ん。さ。い。あ。ま。一。麾。も。あ。ら。ん。と
 款。成。と。中。の。退。け。を。ら。ん。天。變。味。方。も。福。せ。り。と。お。答。へ。て
 ぞ。居。る。ま。さ。り。抑。保。信。十。四。支。より。弓。箭。を。た。て。今。年。二。十

天變味方

甲子
信

と相識而。小糸氏安ハ氏出の舅とて以。綱やんせ。信玄と
 若めんごとと急ぎ相及又使者と馳て。甲州へ塩止の條とぞ中
 合うれたる。武田小糸赤に中らじ。氏安父子の思ひはらん
 一俄も及ばず件流みちる見よりて。今川小糸の領を廢余
 と傳く。武田の分圓へ塩止をせしける。若甲斐。信玄上野ハ
 悔を以て圓中。塩の運送と對まてより。庶民英氣と落し
 疑懼いんんさうと救済信け事成傳く聞て。奮然とて
 甲州へ羽撤成飛せて。中されたる承る。近玉の流れまを
 分傳と。分圓へ塩を以。前中。近頃。其の挙勅。朝とて
 残との條。油佐の限也。何後隣國の腰拔大将共。予等
 五て妻を又向ふりて得ざるが友。初る未練る。縁畧を以る

世末

義元の雙故より。小田と志瓜通し。刺四郎勝頼へ縁組を
 一を懐り。雪とよ霜と加つるが如く。いれ。益。其のを
 不元存生の時は。是れ。定家郷自學。其古今集と五部
 有し。やと。催促。五事頻る。是。よ。古今集。先年長孫
 信玄守が。桑。及。者。主の仇。とて。信玄の。森。不。及。其。竊。其
 ち。る。桑。及。召捕。て。刑。よ。約。ま。し。けれ。ども。古今集。再。子。小。糸。を。以
 け。ま。び。武田家。催促。の。五。答。を。竊。し。事。と。た。右。よ。よ。せて。只。時。日。以
 ど。延。し。る。と。氏。出。益。懐。て。信。玄。叔。父。と。功。又。着。事。を。手。に。た
 る。悔。り。世。の。至。宝。と。る。古今集。と。又。た。だ。催促。をも。合。ふ。せ
 ざる。を。奇。怪。す。れ。今。の。兵。隊。の。中。に。取。五。と。針。畧。と。以
 さん。と。い。ひ。ども。武田の。孫。よ。向。ふ。り。も。い。ろ。孫。が。竊。臣。三。浦。を。討

孫三浦を討



則我初也

謙信
 樽士
 詩
 賦於
 國



上救謙信

石小甲功言

九

會有り。傳佐も和哥一首。詩一章。孤泳今あり。則

露下軍營秋氣清 數行過雁月三更

越山并得能州景 不管家鄉念遠征

侍も亦伝云よ考らばとお海也

武田今川勇捕之事并氏直敗北之事

武田大信正伝云い今川氏も極止死企。二國の民を苦めん世
有妙り。帝都も義兵と揚ぐ。二好松永也。運使と征伐と死
始と先今川家と攻滅さんと。密も調畧も多小。今川家此を臣
初比奈兵衛を夫と始。勇長多武田家も志強運も多れば
伝云先今川家へ使者と申入られらる。夫をこの領地。伝州
傳索も隣りたるを。伝云も賜りし。先伝云が領分も續き

て少く。義元の吊合戦とありん時。佐加博の爲。出る仕るも便
ういし。有ぢれば。元来も意。武吉氏もなれむ。大も立腹して
予父の吊合戦と。遂ん。年伝云の加勢城を人。果をこん
合也。氏も一も。勝利と得たなり。其然。敵も小。事と縁者
中。成し。伝云。大。推。氏も。あ。る。あ。く。と。を。な。り。く。高。家。有。餘。の
領地と他も懐く。いとも。伝云。の。得。を。あ。く。す。ま。ど。お。れ。家。は。傳
たる。定。家。の。古。今。集。成。何。も。既。碎。の。斜。も。盗。取。も。ま。い。と。を
義元。懐。て。伝。云。の。別。離。の。人。さ。り。と。を。か。さ。れ。り。く。氏。も。の。あ。る
い。く。報。又。と。り。く。も。今。世。の。心。中。に。恨。果。て。り。く。今。月
より。以来。考。伝。も。通。ら。る。ぐ。と。散。る。小。悪。口。く。と。役。者。と。を
これ。ち。伝。云。も。れ。と。を。又。聞。き。て。然。も。あ。る。ん。然。ら。ば。先。二

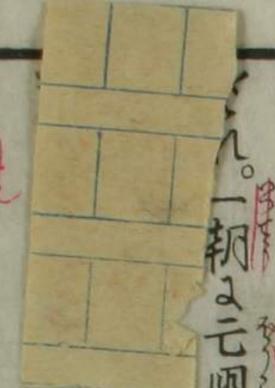
武田今川勇捕之事

二

下 甲冑と脱。常解て...
 兵士追々小退き来て。敵の大軍早退見方と押詰
 有申進く充海のほど。如何防ぎ給へんや。周章志
 告多るぞ。氏志大息次也。鬼南老長城中て織さるより
 外はとて。三浦右衛門尉と姓名を記せと有く。儲朝は兵
 傷や有し召されたる。小倉内親父承て曰。是よりいども。以
 場下は居やさげと申。さうを彼が人質か見よとありて
 されど。早ぬきと申して。後には落去りや。親をよるより
 全る。親こそ朝比奈出奔したること。云程に我れ激名
 葛山を逃れして。氏志親は思われける。常士ホ。悉列をしく

敵

思ひくは落ゆ。ちるぞ是非もをた。さしも氣候する氏志
 ぞも。唯あれまよひされて。此然くありちるを心する。近
 相繼而曰。勢而已内。空敵のまは擣とふ。ならんも
 流石よ口措き幸はくあれを先掛川へや落し。あつせんは
 へや落し。あつせんを。残兵少く候へは。任され。城と捨山西と
 さくぞ落ゆ。作氏志へ。強を冬の右守とて。然も
 救代の名家正統する。乃儒代恩願の。此もよる。見放
 一朝又元國の將とを。何ん。さうあを。救代の太守
 と。悦草。毎はも。ぬと。未兵。文へ。さ。小崩れ
 と。乃。級。又。似。り。乃。諸。士。の。跡。さ。る。も。一。朝。一。夕。の。事



氏志倭臣の三浦右衛門が。親乃は速い。旧功忠貞の

吾二世ニ小歩例一。ク足とぬせ衣裳（利）存（小）懲（一）
されども。三浦（ハ）これと恥（ト）尻（ト）腰（ト）と座（ト）手（ト）合（ト）せ。位（ト）と進（ト）
延（ト）遂（ト）と冬（ト）及（ト）言（ト）天（ト）仲（ト）小（ト）あり。小笠原（ト）興（ト）八（ト）郎（ト）と頼（ト）け（ト）も（ト）元（ト）來（ト）
武（ト）道（ト）と廢（ト）小笠原（ト）家（ト）より（ト）され（ト）也（ト）。孫（ト）傷（ト）兵（ト）と（ト）氏（ト）去（ト）氏（ト）感（ト）一（ト）
政（ト）乃（ト）氏（ト）死（ト）一（ト）。緒（ト）士（ト）と遺（ト）外（ト）と（ト）。庶（ト）民（ト）死（ト）若（ト）し（ト）也（ト）。主（ト）家（ト）と
滅（ト）せし奸（ト）賊（ト）。武士（ト）の名（ト）負（ト）も（ト）穢（ト）し（ト）と（ト）。そ（ト）任（ト）廣（ト）を（ト）不（ト）
追（ト）出（ト）し（ト）傳（ト）音（ト）と（ト）加（ト）ら（ト）れ（ト）也（ト）。嗚（ト）呼（ト）雨（ト）小（ト）出（ト）る（ト）若（ト）尔（ト）及（ト）。三浦（ト）が
積（ト）西（ト）一（ト）肘（ト）と（ト）報（ト）て（ト）。自（ト）業（ト）自（ト）得（ト）の（ト）程（ト）で（ト）徐（ト）快（ト）る（ト）。實（ト）は（ト）孫（ト）奸（ト）倭（ト）の
臣（ト）も（ト）稀（ト）る（ト）乎（ト）。亦（ト）危（ト）軍（ト）此（ト）中（ト）多（ト）る（ト）者（ト）歟（ト）。何（ト）と（ト）信（ト）音（ト）と（ト）悦（ト）で（ト）是（ト）を
奉（ト）用（ト）す（ト）。今（ト）は（ト）主（ト）將（ト）の（ト）時（ト）也（ト）。依（ト）是（ト）無（ト）忠（ト）信（ト）命（ト）と（ト）抱（ト）て（ト）疾（ト）く（ト）是（ト）を
刺（ト）す（ト）。幸（ト）堅（ト）氷（ト）乃（ト）及（ト）及（ト）ん（ト）や（ト）

川茂カ巴美...

臣（ト）遠（ト）ぶ（ト）け（ト）。彼（ト）三浦（ト）が（ト）侍（ト）て（ト）揚（ト）て（ト）。國（ト）政（ト）と（ト）亂（ト）し（ト）。庶（ト）士（ト）死（ト）若（ト）し（ト）也（ト）。
幸（ト）に（ト）及（ト）び（ト）。且（ト）後（ト）と（ト）位（ト）而（ト）。功（ト）臣（ト）此（ト）所（ト）帯（ト）と（ト）没（ト）収（ト）し（ト）。是（ト）と（ト）奸（ト）臣（ト）不（ト）死（ト）ん（ト）く（ト）
そ（ト）便（ト）侍（ト）る（ト）故（ト）と（ト）。事（ト）小（ト）及（ト）ず（ト）。嗚（ト）呼（ト）君（ト）臣（ト）と（ト）親（ト）土（ト）女（ト）の（ト）如（ト）
あれ（ト）ば（ト）。臣（ト）君（ト）と（ト）親（ト）冠（ト）無（ト）此（ト）如（ト）の（ト）捨（ト）言（ト）。的（ト）も（ト）式（ト）君（ト）子（ト）是（ト）と（ト）見（ト）て（ト）。後（ト）
來（ト）の（ト）戒（ト）と（ト）み（ト）じ（ト）。備（ト）又（ト）倭（ト）臣（ト）三浦（ト）右（ト）衛（ト）尉（ト）。頼（ト）氏（ト）去（ト）又（ト）附（ト）臣（ト）也（ト）。後（ト）
落（ト）約（ト）々（ト）が（ト）。そ（ト）後（ト）花（ト）沢（ト）の（ト）城（ト）落（ト）去（ト）乃（ト）時（ト）也（ト）。氏（ト）去（ト）則（ト）于（ト）奸（ト）惡（ト）
我（ト）思（ト）ひ（ト）知（ト）く（ト）。侍（ト）れ（ト）故（ト）と（ト）れ（ト）ぢ（ト）れ（ト）ば（ト）。三浦（ト）見（ト）ん（ト）ど（ト）う（ト）て（ト）。三州（ト）の（ト）方（ト）と（ト）落（ト）
約（ト）ち（ト）る（ト）を（ト）領（ト）か（ト）れ（ト）而（ト）性（ト）共（ト）是（ト）と（ト）見（ト）付（ト）。年（ト）來（ト）遠（ト）奴（ト）が（ト）毒（ト）舌（ト）ふ（ト）り（ト）。難（ト）
依（ト）又（ト）迫（ト）り（ト）將（ト）命（ト）と（ト）し（ト）ひ（ト）し（ト）者（ト）幾（ト）何（ト）と（ト）あ（ト）ら（ト）ば（ト）。そ（ト）上（ト）連（ト）絡（ト）る（ト）主（ト）君（ト）
の（ト）臣（ト）家（ト）滅（ト）却（ト）は（ト）る（ト）國（ト）城（ト）され（ト）ば（ト）生（ト）動（ト）せ（ト）る（ト）者（ト）も（ト）守（ト）速（ト）に（ト）
お（ト）殺（ト）して（ト）年（ト）が（ト）終（ト）の（ト）時（ト）候（ト）と（ト）報（ト）せ（ト）う（ト）と（ト）て（ト）。そ（ト）う（ト）り（ト）の（ト）如（ト）き（ト）み（ト）

死の單の言...

十五

武田北条確執之事

去程武田の先鋒馬場山縣小山田小幡。出田同胎内藤。乃隊將。諸軍とらら。旗旗とらひ。せ。も。く。して。は。尻。と。う。八。系。す。で。押。上。せ。り。これ。も。氏。主。の。疲。弱。也。其。余。の。人。も。き。の。山。家。へ。左。退。ち。れ。ば。廢。故。も。あ。ら。ず。り。の。う。車。は。後。府。よ。入。て。早。く。館。火。と。り。け。た。ま。へ。餘。烟。四。方。に。覆。て。救。代。の。者。館。火。灰。煙。と。ど。成。り。る。茲。に。今。川。家。北。士。大。將。武。田。家。之。志。成。通。じ。る。事。二十。八。本。陣。に。來。て。各。人。質。と。せ。し。け。し。ば。佐。玄。は。足。有。り。悉。甲。冑。へ。送。り。れ。ば。我。が。鼻。と。ら。ふ。事。に。改。管。と。す。猛。威。を。示。て。と。拒。ら。る。事。も。小。相。州。の。小。条。氏。女。の。氏。主。の。舅。と。ら。ふ。事。佐。玄。の。舉。動。を。安。く。は。思。は。れ。た。先。に。心。成。引。入。ん。と。や。後。府。不。便。者。と。い。は。し。酒。佳。者。

城。呈。せ。り。と。て。曰。今。川。氏。主。奢。倭。起。こ。し。行。跡。人。を。不。肖。く。故。に。追。代。と。加。へ。ら。し。一。條。む。の。由。事。あり。と。と。魁。小。中。入。り。と。き。れ。ば。佐。玄。は。死。謝。而。又。伽。籠。寺。修。南。唐。と。す。種。々の。進。揚。と。お。休。小。田。系。又。送。て。其。懇。志。と。報。せ。ら。る。以。時。小。川。氏。女。大。に。怒。り。佐。玄。親。族。より。今。川。を。例。し。其。國。城。横。領。の。條。言。語。同。の。事。あり。氏。女。又。亦。佐。玄。と。討。果。を。も。ち。り。と。氏。主。と。後。府。と。還。任。食。ん。ど。と。寺。修。南。唐。と。修。豆。の。小。条。へ。指。差。て。禁。籠。せ。し。ま。去。來。後。信。と。は。て。佐。玄。死。追。散。き。ん。と。と。昂。時。小。田。系。と。お。き。後。兄。の。押。出。た。ね。佐。玄。の。事。も。小。条。考。陸。介。同。治。近。少。捕。同。治。三。郎。松。田。尾。張。守。同。肥。後。守。狩。野。入。及。一。房。九。修。修。賀。守。入。及。古。後。河。守。多。目。周。防。守。荒。川。孝。後。守。成。田。下。総。守。千。宗。

武田

246

武田
北條
の陣



武田

十七

今五胤系式於左捕。搦本次郎右衛門尉。内及大和守。大和守
 佐吉と胎くして。平野初合四万八千余騎。薩摩山。小幡平。由井
 蒲系より三嶋まで。辰之次改所。大將左系を交氏安女
 三嶋の勢。経ち又本改所。居りまじり。武田信玄。武田信元
 平氏安が後法と事久し。ま故よこを花は。山西の支成へ。軍勢
 へ出さるり。然るべは。序は小条父子とも。追討おし。小田系
 蹄より。けて得さ。さんどと。則山縣三郎兵衛尉昌景。相本市。信
 尉と隊。おし。三浦右近。同兵衛尉。大徳。佐守。下の相組
 九千五百余人。越川。田中。花は。ホの。諸城。押への。乃。鞠。と。は
 て。指。向。も。自。万。八。千。余。騎。列。率。而。奥。津。川。原。へ。衆。出。し。て
 奥。山。の。切。所。に。本。陣。と。居。ら。れ。し。ま。は。先。手。乃。諸。軍。は。具。津。川。と

系又高て。次牙と守て陣列す。両陣の勇威大虚小充満。猛勢
 押軸又震て。凄。凄。を。見。え。り。お。れ。見。よ。り。て。兩。家。の。圍。攻。屢
 有。け。ま。も。大。畧。武。田。の。勝。利。と。成。後。府。の。信。玄。の。子。に。入。り。後。元
 義。元。率。小。部。で。武。田。小。条。和。睦。又。及。び。今。川。氏。も。小。田。系。早。川。と
 いふ。所。又。蟻。居。り。又。小。條。家。と。越。後。の。上。杉。謙。信。とも。和。睦。み。て
 三家互小干弋。所止。關。東。越。後。の。静。盪。小。部。及。び。さ。り。

繪本烈陣功言卷之十二大尾 辻清

15
 15
 15

皇都

小澤東陽著

東都

柳川重信畫

嘉永五壬子孟春

下谷御成通

東都書林

紙 屋徳 八

浪華書林

心齋橋筋博勞町角

河内屋茂兵衛

新増補

萬代新節用集大成

薄葉抄を冊子箋綴表紙に
至極奇麗に仕立札上りとし
て甚便利に書す

此節用集を字數夥敷に増し、文字を尋るに便名、教の
早引とて、其中に天地神佛官位人倫衣食器仗草木
生猛姓氏言綴等の部分ありて、仮名附の教字家に
と字を改め、又新字此字と階書時の傍の真字とて
筆畫の類ををれ、和漢官職姓名義規及書上方
諸御人名衆の部、毎小字を領國城主等、其別名、古跡
神社佛閣悉く圖所附、字本兼種の異名ををれ、

孫安性氏の尚時何國諸侯の市簿中に有事と巨
 細小記。卷末に諸澄文手紙之案文男女名頭相性
 年代六十箇諸玉一々官都合地口本官用名其外
 重寶の夏敷多衆既小漢土字書小凡四万三千余字
 一々悉く記憶する者稀なり。本朝の熟字俗字至々
 夥多事々に及取扱ふ文字之成忘る事多し故今此
 五代甲引之字敷拾万余紙頁八百二十余丁あり成文字に
 ても漏り集録する古今未發海内無双の節用集形と
 三都先緒國於會書林行を寄と出求メテ以

釋尊御一代記圖會

全部六冊

山田意齋叟參考
 前北齋老人圖画

釋迦如來の御文浄飯大王の御即位と幾端と、憍曇彌摩耶而夫人の會
 如來摩耶夫人の胎内小生と託、多事憍曇彌夫人摩耶と接、胎内乃
 王子の出生及幼人と道師小呪咀やむる條如來夢中乃説法小母の子息
 と鏡の裏浄飯王藍毘尼園小花の宴と催、多事悉達太子誕生の祥瑞
 悉達太子御幼推り喜提心と發、多事謂釈迦提婆耆恨の事悉達太
 子宮中と出て檀特雪山小難行の正覺成道と出山、最生と海邊
 多事悉達葉舍利弗目蓮及諸羅漢佛弟と成和解耶論、其心
 提婆が十惡須達月蓋而長者の信心流離王の畏惡教導、出入海五妙
 神力涅槃像の歎も都て如來御一代の事と記、圖、如、難有續本也

葛飾戴斗画

英雄圖會

全一冊

一勇齋國芳画

三國英勇画傳

全一冊

忠臣銘々画傳

全一冊

漢齋英泉画

畫本錦之囊

全一冊

萬職圖考

初篇二篇三篇
四篇五篇全五冊

大阪書林

河内屋茂兵衛梓

都乃手ぬり 全一冊

六樹園大人著

江戸を極楽と云ふに地の中も
浅州と西三河とあはれありさぬ
或は文とて見るがごとくありさ
する名文あり

先哲像傳 全四冊

徳齋原先生著

先哲名家の事蹟のそと省像の
傳をのりてたゞく省像の對する
時をたゞりて述べて其人の徳も
るをのりて此編の學者書家を
聞人雜技のすべ由來正し
省像と真跡と集り各小傳とを

新著門集 全十冊

此書をいそぐ古くより世に
たりし字紙のそとあり
とりのゆゑに後集を
在實録をれを集中人
の性名居下旦年曆と
洋ふありて古今
未曾有此種書あり

名家畧傳 全四冊

山崎美成大人著

先哲叢書也世時人傳よとれ
世よ名をくきとて馬村の學士
限遠乃文人のそとあり
言柄と集録せし書あり

手嶋著菴先生述

女訓メウツリ 女前訓メウマエ 艸種ウヅク

姿見スガミ 全一冊

繪人

此書ハ女子ヒヤリ教の心算に於て、
孝行貞操の心算、先賢の訓、
あつたを、流し、昔の式禮、
衣服、稽古、心算、外、女、
心算、あり、著述せし、
心算、あり、著述せし、

鎌田柳弘先生作
心學五則シンガクゴスズ

全壹冊

六樹園大人譯 前篇六冊
通俗排悶録ツブシクハク

後篇六冊

浪速書肆

心算通情考問所

河内屋茂兵衛藏版

人倫の正路、
此五則、
先生及別の人、
心算、
心算、
心算、

書

林

京都寺町通佛光寺	河内屋藤四郎
江戸日本橋通壹丁目	須原屋茂兵衛
同 貳丁目	山城屋佐兵衛
同 貳丁目	須原屋新兵衛
同 四日市	山城屋政吉
同 本石町十軒店	英大助
同 下谷御成道	英文藏
同 大傳馬町貳丁目	丁子屋平兵衛
同 芝神明前	岡田屋嘉七
大阪齋橋通本町角	河内屋藤兵衛
大阪心齋橋筋通夢野角	河内屋茂兵衛

